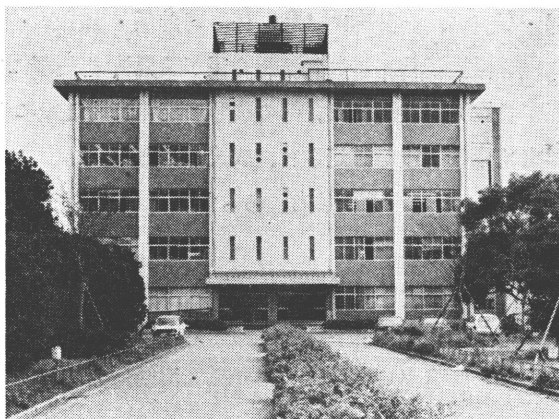


第18章

事務局



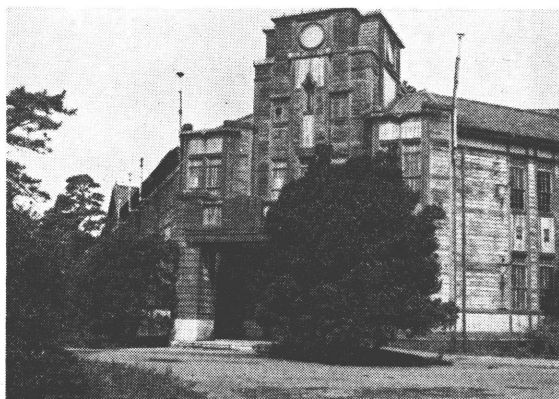
第1節 事務局の歩み

1. 千葉大学の創設と事務局の発足

昭和24年5月31日法律第150号により国立学校設置法が公布され、同日施行された。これにより当時千葉県内にあった千葉師範学校・千葉青年師範学校・千葉医科大学・同附属医学専門部及び薬学専門部・東京工業専門学校・千葉農業専門学校の各旧制国立諸学校が包括され、新制の国立大学として千葉大学が発足した。

一方、昭和24年6月22日文部省令第23号により国立学校設置法施行規則が公布、同日施行、同年5月31日から適用され、これにより各国立大学には事務局及び厚生補導に関する部が置かれることになり、千葉大学にも事務局が設置された。

発足当時の千葉大学事務局は千葉市矢作町の旧千葉医科大学に設置され、庶務課・会計課・施設課の3課で構成され、庶務課には庶務係・文書係・人事



千葉大学発足当時事務局が置かれた建物(旧千葉医科大学)

第1節 事務局の歩み

係・調査係、会計課には総務係・司計係・出納係・用度係・管財係（その後昭和25年に経理係、昭和26年に共済組合係が設置）、施設課には営繕係（その後昭和25年に企画係が設置）が置かれた。その後昭和26年12月1日に千葉大学事務組織規程及び千葉大学事務分掌規程が制定され、成文化された。

昭和24年当時千葉県内にあった旧制国立諸学校の事務組織はおよそ次のとおりであった。

千葉師範学校（千葉市市場町）

庶務部 庶務課（庶務係）

庶務部 会計課（用度係・出納係）

女子部事務分室

千葉青年師範学校（印旛郡千代田町）

庶務課

千葉医科大学（千葉市矢作町）

総務課（庶務掛・経理掛・出納掛・技術掛）

学生課（教務掛・学生掛）

附属医学専門部事務室

附属薬学専門部事務室

東京工業専門学校（松戸市岩瀬）

庶務課

会計課

教務課

厚生課

図書課

千葉農業専門学校（松戸市戸定）

庶務・会計課

教務課

生徒課

図書課

なお、国立大学における事務組織は、大別して事務局、厚生補導に関する部及び各学部等の教育研究組織・図書館・附属学校等にそれぞれその規模に応じて置かれる事務部又は事務室の3種に区分される。このうち事務局及び厚生補導に関する部は、各学部等の教育研究組織・図書館・附属学校等の事務を総括調整しつつ、全学的な立場

からそれぞれ庶務・会計及び施設等に関する事務処理と学生や厚生補導に関する事務処理を行う役割をもっている。これらの事務組織には事務を分掌するため規模に応じ部及び課が置かれ、このほか入学主幹等専門的事務処理に当るポストも設けられている。通常事務局及び厚生補導等に関する部を総称して大学本部と称しているが、これは法令上根拠ある名称ではない。

2. 西千葉地区統合整備と事務局の移転

事務の輻輳に伴い漸次事務局の整備が行われ、昭和33年6月20日に施設課の企画係が庶務係と改称、営繕係が第一営繕係と第二営繕係に分離され、更に昭和37年4月1日には庶務課人事係が任用係と給与係に分離、調査係は企画調査係と改称、また、施設課第一営繕係が設計係と工営係に、同第二営繕係が電気係と機械係にそれぞれ分離され、事務機構は漸次整備拡充された。

次に、千葉大学の統合整備計画は、理想的な総合大学として発展するためにはキャンパス問題が最大の課題であったが、昭和36年5月9日関東財務局国有財産審議会において東京大学生産技術研究所敷地約15万坪のうち約12万坪を千葉大学へ移管することが決定されたことにより、千葉市弥生町のいわゆる西千葉キャンパスの整備が急速に進められ、逐次各部局の移転が行われるようになり、昭和37年5月には事務局も千葉市矢作町から西千葉地区へ移転することになった。



西千葉地区移転後の本部庁舎

西千葉地区移転後の措置として、昭和38年12月1日会計課に管理係が設けられた。

3. 新庁舎落成とその後の事務局

事務局の組織ないし機構上の変遷中で注目すべきものは部制の施行であるが、昭和39年4月1日事務局に部制が施かれ事務局は2部1課制となり、庶務部に庶務課（庶務係・文書係・企画調査係）、人事課（任用係・給与係）が、経理部に主計課（総務係・